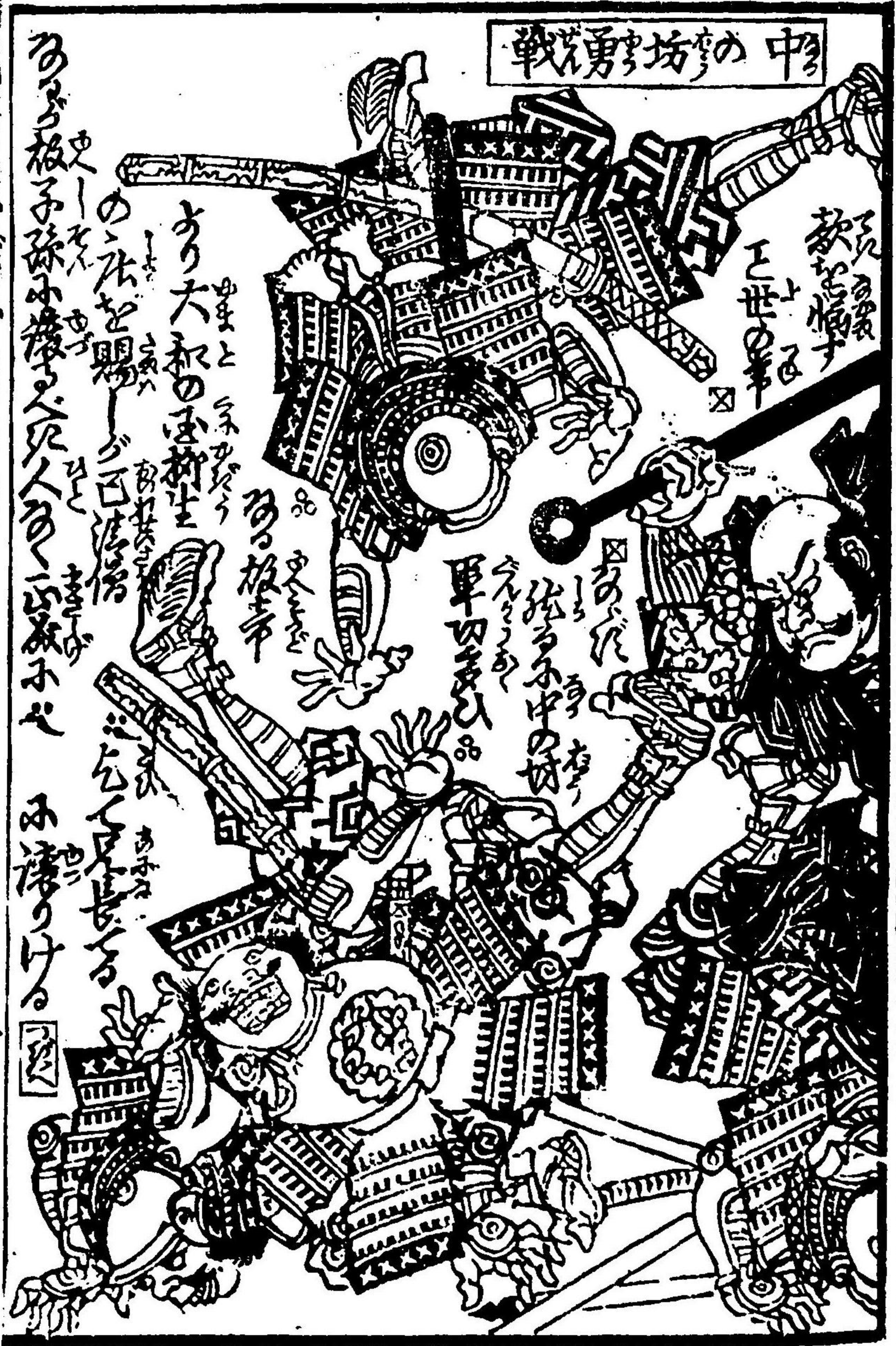




戦勇坊の中



あり大和の守新正
の之を賜へては侍
あり板子孫も後とて人
あり板子孫も後とて人
あり板子孫も後とて人



常小
後橋
常小
後橋
常小
後橋

抑く折生但守宗元との家譜を
尤大長秋道公の末孫とて守治長家の
源氏の守長様とて守治長家の
守治長家の守治長家の守治長家の

足長を
 大和の團扇上を
 持生のおまを
 候しまより
 比名を
 名を
 十八代を
 経て持生

金太郎行曲小
 じろうを
 ぬの倭兵を
 持生のおま

持生のおま
 用入る
 しく内
 介のそ
 仕仕せり
 持生のおま
 おん持生
 てはまた
 とまびきの年
 十三代を
 持生のおま



早の代を
 大和の団扇
 持生のおま
 候しまより
 比名を
 名を
 十八代を
 経て持生

持生のおま
 用入る
 しく内
 介のそ
 仕仕せり
 持生のおま
 おん持生
 てはまた
 とまびきの年
 十三代を
 持生のおま



持生

持生



示合符部のり人妻母まゆめん
 とせしむ十帝機の高まのり

松永
 松永

色たると
 有るゆふ
 告げれが
 密りあはす
 柳さんと
 密りあはす
 色たると



まみり交さのち二人の授る昔
 怒りお給老婦嫁行まをたて

南三三方とあて
 内膳とみお申付て
 義判記の方
 板おより裁裁てお道の交り
 りる老母井原堂が老長松入おんごの
 うま強区一太孫のり程のり

老長松入おんごの
 由りぬ大のりとの半迷
 山も何となくおんご



新 喜 封 子 共 子 父 母 子

真実の公証
松室の内務
中野の押書
松室の押書
松室の押書



松室の押書
松室の押書
松室の押書
松室の押書
松室の押書



新 喜 封 子 共 子 父 母 子

松室の押書
松室の押書
松室の押書
松室の押書

松室の押書
松室の押書
松室の押書
松室の押書
松室の押書



寺長老の長女
の恩を拜謝

義太夫
経受

美奈の宮とあり
ふりの坊主又十師
熱傷限りある父が

美奈の宮とあり
上乗修

源の古足記あり
けええハハハ
の玉領修徳村の
去る小中興
刀槍の社人

武術の
人



心算

家
左傳
兵書

形のと
云終る
遂ふ

世天下の
松室を討たやと
武術修徳村
源の古足記あり
けええハハハ
の玉領修徳村の
去る小中興
刀槍の社人



上原
山崎
天の
身
面
對

又十師公至孝
を感ふ多敷日安み
首を重き事。

對全の二位あり
去徳を
婦の仇
不越へ
今汝が
刀打を
款四卒
孫



又十師公を聞
て旅の傍の
る彼人これ
と之別れ
又十師
上原赴

今世を
とけ之上物無精の
山林子國居く在世と
家紹ふ不敷一六
又十師公を聞
て旅の傍の
る彼人これ
と之別れ
又十師
上原赴

◎之法規初とて
より堅く性るれば
上達
る世
又十師
刀打
のあり
まを
りか
あ
あ

世に不義なるものあるも、世に人の間の老幼不
 性のあるは、仇人の異物を六九七老を喰ふもの
 捨るもの、人の殺しをせざるに因りて
 教ふもの、又十所の法に因りて
 上衆の年月恩誼を拜謝し
 明日は法也又十所の法の
 名を出す大和をす
 名を出す大和をす
 押し出すもの
 用人松葉内
 孫の人の要
 方と密通す



老のものを首井
 家も終るもの
 老のものを首井
 家の終るもの
 加ふるもの
 又大方に我を
 之を我を
 巨仕に
 の老に
 後程
 我居



○

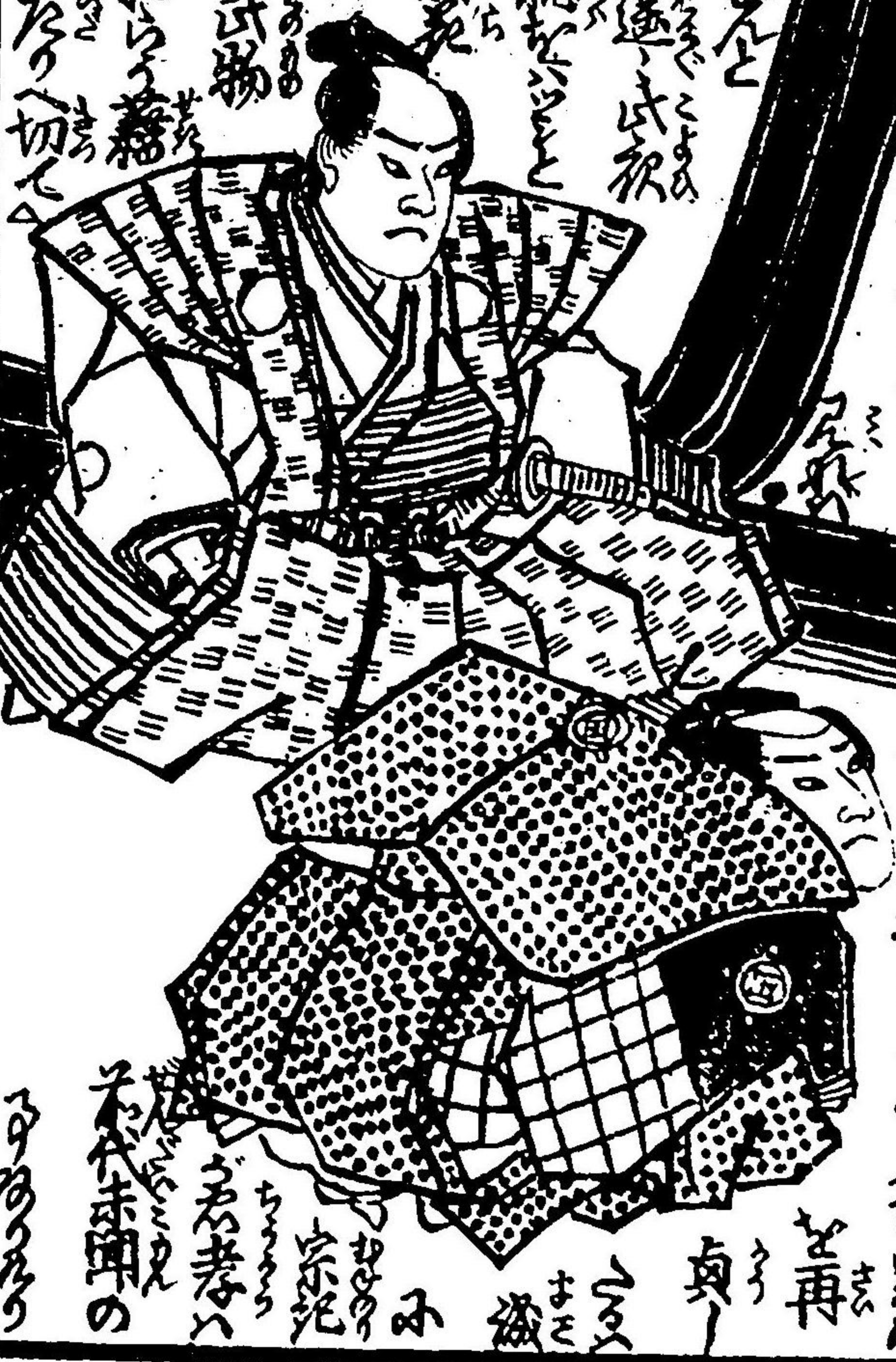
至る迄天いし海を尋ねて後終
 末藤公の後を、柳生、平次、伊賀、
 佐藤、早瀬、はたはた、松平、のたて、
 廿二夜、ついに、
 我輩も、
 柳生、早瀬、
 柳生、早瀬、
 柳生、早瀬、



元々百人入と
 切て、ついで、
 又、ついで、
 の、ついで、
 柳生、早瀬、
 柳生、早瀬、
 柳生、早瀬、

廿二夜、ついに、
 柳生、早瀬、
 柳生、早瀬、
 柳生、早瀬、

柳生、早瀬、
 柳生、早瀬、
 柳生、早瀬、



柳生、早瀬、
 柳生、早瀬、
 柳生、早瀬、

東京芝草區

第二區

芝草馬道三丁目

芝草區

大橋堂 児玉弥七板

明治十三年七月十日

御届